

## (別紙) 成果報告書

### フィールドワーク 浅間通りのにぎわい創出

#### 静岡大学地域創造学環

引率担当教員：教授 杉山康司、芳賀正之、准教授 川原崎知洋

参加学生：(地域経営コース1年) 木下湧太、水野なな子、大石清香

(地域共生コース1年) 佐藤恵美、西子幸裕

(環境防災コース1年) 服部智美

#### 1 要約

本事業の目的は、浅間通り商店街の賑わいづくりへの貢献である。そこで今年度のフィールドワークの到達点として浅間通り商店街の歴史や実情を学ぶことを定め、まちあるきの実施や商店街振興組合及び各店舗への聞き取り調査を実施した。また来年度前期を目処に、調査した内容に基づいて商店街地図を作成し、次年度以降の活動の基礎情報として活用する。

今期のフィールドワークを通し、商店街組合役員の将来への危機感や活性化への想い、またそれを実現するための取り組みを伺うことができた。だがこれに対して各商店への聞き取りでは、商店街振興に消極的な意見も目立ち、「賑わい創出」に対する温度差があることも見受けられた。

#### 2 フィールドワークの目的

近年、商店街利用客の高齢化と郊外の大型商業施設の進出により、浅間通り商店街では利用者が減少している。そのため、現時点でも廃業を余儀なくされつつある店舗が少なくない。

そこで本フィールドワークでは、静岡市を代表する浅間神社の門前町として創業300年の店舗が今も残る浅間通りの資源を活かし、観光客の誘客や地元利用者拡大のための実践を目的に取り組む。

#### 3 フィールドワークの内容

(A：予定どおり実施できた)

##### 1) フィールドワーク実施日程

1回目 11月1日 (水)

商店街振興組合役員顔合わせと浅間通り商店街の概要説明

2回目 11月15日 (水)

まちあるきによる各商店の業態と位置の記録

3回目 2月18日 (土)

各商店への聞き取り調査と収集した情報の集約

4回目 3月10日 (金) ※実施予定

商店の聞き取り調査①

## 2) フィールドの設定準備

浅間通り商店街のフィールド設定は、商店街と大学を静岡市商業労政課に仲介して頂くことで実現した。浅間通り商店街をフィールドとして受け入れて頂くため、浅間通り商店街振興組合の理事長をはじめ、役員の方々と数回にわたり協議を行い、商店街の歴史や年間行事、商店街が抱える課題を聞き取った。特に商店街が抱える課題は、①商店間の横のつながりが希薄であること。またその結果、②商店街組合が企画するフェアやイベントへの協力に、消極的な店舗が年々増えているとのことであった。店主の高齢化や大規模商業施設の進出による顧客の移行、それに伴う商店の売上げの減少から今後、商店間の関係は一層厳しくなるのではないかと組合は予想していた。その中でも、31年続く日・タイ友好長政まつりの運営は毎年多くの入れ込み客で賑わう一方、運営に関わる人材の確保が年々厳しくなっているという。またイベントの内容も組合の固定化したメンバーで検討されるため、プログラムに変化を付けられない点が課題であると話され、平成29年の長政まつりの企画に学生の参画を期待する意見をいただいた。

このような地域側の要望を受け取り、11月より学生6名でフィールドワークを開始した。今年度の目標としては、浅間通り商店街の店舗ごとの業態や創業年などの基礎情報と、商店街や経営の課題を個別の聞き取り調査を行うこととした。

## 3) 第1回フィールドワーク

商店街振興組合の役員に対して聞き取りを行い、商店街の概要、組合の役割、商店街が抱える課題の説明を受けた。このほか、組合で保管している大正時代以降の浅間通り商店街の写真や静岡市商業労政課から提供して頂いた昭和初期の商店街店舗が示された地図を基に、現代の商店形態との差異を把握した。

## 4) 第2回フィールドワーク

2回目の活動は、組合役員さんの案内で商店街のまちあるきを行った。特筆すべきことは、浅間通り商店街は100年以上の歴史ある商店が多いこと、古美術、婦人用品、靴屋が複数あること、また食料品店は無く、自宅を兼ねているため、テナント型の店舗が少ないなどである。

上記のことに加え、まちあるきを行うなかで、役員さんから組合が抱える課題を聞くことができた。例えば、浅間通りには100を越える店舗があるが、組合が全て把握できているわけではないという。この理由としては、組合に加入しない店舗も少なくないことが挙げられる。そのため気付けばシャッターを閉じ、閉店や休店になっていることもしばしばあるという。その他、テナント型経営が少なく、個人経営が大半を占める浅間通り商店街は、後継者不足という商店街の課題が特に影響しやすい状況にあることを実感した。またこの日、数年前に作成された商店街マップを見ながら観察したが、上記のようにシャッターを下ろした店もところどころあり、最新版のマップの必要性を感じた。自らが商店街に詳しくなるためには、自らが調査し作成することが重要だと感じたため、次回以降は各店舗を訪問し、聞き取り調査を行い、その結果をマップにまとめることにした。

## 5) 3回目のフィールドワーク

今回から聞き取り調査を実施し、各店舗の基礎情報に加え、自店舗や商店街に対する想いを聞いて回った。各店に共通して聞かれた意見としては、「浅間神社との関わりがない」「大型商業施設に客が流出し、商店街に将来性を感じない」「積極的に活性化に取り組む気力があまりない」「商店街としての横の連携が取れていない」といった意見が目立ち、浅間通り商店街が抱える課題の一端を知ることができた。

また調査のまとめは、浅間通り商店街の近くにある静岡市産学交流センター「地方創生推進サテライ

ト」にて行った。さらに今回の活動から得た問題意識を持ちつつ、3月には残りの店舗への聞き取り調査を行う予定としている。



写真1 商店街組合から概要を聞く



写真2 各店舗の聞き取り調査を行う①



写真3 各店舗の聞き取り調査を行う②



写真4 b-nestを利用してまとめを行う。

#### 4 フィールドワークの成果

- ①浅間通り商店街の歴史や商店街の特徴を把握することができた。
- ②商店街を観察し、空き店舗の数や店舗ごとの客層を把握することができた。
- ③次年度の取り組みを定めることができた。

#### 5 地域への提言

今年度の活動は提言が行えるものに至っていないが、各商店への聞き取りを通じ、浅間通り商店街の主な課題は、後継者不足、浅間神社という資源の活用、組合の組織力の強化にあると分かった。そのため今後、商店街組合や各商店からの協力が得られるのであれば、この点の改善に商店街と一緒に取り組みたいと考える。

#### 6 地域からの評価

浅間通り商店街振興組合は浅間通り商店街が発展することを願い頑張っているが、なかなか前に進まないことが多い。学生の参加は、商店街のみなさんにとっても新しい人たちとの関わりで、これまでとは違う動きが出てくるのではないかと期待している。(商店街振興会役員)

